



**第7回 アジアファッション連合会 中国・杭州大会 REPORT**

2010年7月

財団法人日本ファッション協会

## 第7回アジアファッション連合会 中国・杭州大会 REPORT

I. 期 間 : 2010年7月2日(金)~6日(火)

II. 場 所 : 中国 杭州・上海

III. 参加人数 : 約300名

IV. 概 要 :

### 1. アジアファッション連合会(AFF)参加国

AFF Japan	財団法人日本ファッション協会 (JFA)
AFF China	China Fashion Association (CFA)
AFF Korea	Korea Fashion Association (KFA)
AFF Singapore	Textile Fashion Federation Singapore (TAFF)
AFF Thailand	Thai Garment Manufacturers Association (TGMA)
AFF Vietnam	Vietnam Textile & Apparel Association (VITAS)

### 2. AFFについて

ファッションを生活文化全般と広く捉え、加盟国の相互理解の下、アジアにおける生活文化の向上を図ると共に、相互ファッションビジネスを活性化させ、アジアのファッションを世界に発信することを目的に2003年12月に日中韓の連合会として発足。その後、2007年にシンガポール、2008年にタイ、2009年にベトナムが加盟し、今年で7年目を迎える。

### 3. 大会等概要

AFF大会は、生活文化向上の啓発、および、参加国の相互理解・交流をベースにファッションビジネスの活性化を目的とし、年に一度、加盟国持ち回りで開催している。

第7回大会は、中国・上海にて開催される上海世界博覧会の会期中に合わせ開催した。AFF大会のプログラムとしては、杭州にて開会式、ファッションショー、セミナーを、上海にて閉会式を実施。更に産業視察として浙江省紹興県にある繊維品専門市場・中国軽紡城を訪ね、世界最大規模を誇る場内および取引の様子を視察した。

### 4. トップ会談

7月3日(土) 14:00~15:30 Sofitel Hangzhou Xanadu Resort Hotel Meeting Room

相互交流・理解の段階を経て、ビジネス振興へと活動を発展させる具体策について昨年引き続き検討。初段階として取り組むことが決定していた「オフィシャルウェブサイトの開設」は、現在、ベトナムにてサイト構成およびデザイン開発が進行中。開設後は、相互のビジネス進出のツールとして活用する。維持・運営については、常設事務局が引き受けることが望ましいとしたものの、管理体制や費用問題と共に検討する。また、「常設事務局の設置」は、現在、臨時かつボランティアにて中国が運営しているが、今後は、タイに設置する方向で調整することとなった。これに伴い、オフィシャルサイトもタイが運営する可能性が示唆された。更に、新たな活動の一つとして検討されている「アジアデザイナークラブ」の立ち上げは、タイが草案を作成。アジアデザイナーのプラットフォームとして機能させ、アジアデザイナーの国際化および認知度向上を図る

とプランを発表。活動内容や運営・管理などの詳細については、検討する時間が持てなかったため、各国に持ち帰り検討し、改めて協議することとなった。

次回の大会については、韓国が主催国となり、2011年10月中旬頃、韓国テグにて開催することが決定。

## 5. プログラム

### ● ファッションショー見学

7月2日(土) 11:00~12:00 上海世界博覧会 日本館イベントステージ

上海世界博覧会の日本館にて期間限定で実施されたファッションショーを見学。

日本ファッション・ウィーク推進機構が新進デザイナー支援として実施している「シンマイ・クリエーターズ・プロジェクト」で選ばれたデザイナーおよび中国人デザイナー、計5名の作品が披露された。

### ● オープニングセレモニー

7月3日(日) 16:00~18:00 Hempel Headquarters Central Hall

➤ 来賓挨拶	杭州市副市長	Mr. Shen JIAN
➤ 各国代表挨拶	Japan	平井 克彦 氏
	China	Mr. Wang QING
	Korea	Mr. Dae Yun WON
	Singapore	Ms. Doreen Tan
	Thailand	Mr. Sukij KONGPIYACHARN
	Vietnam	Mr. Le Quoc AN

#### 平井委員長より

- ◇ アジアファッション連合会は、アジア各国の相互交流・相互理解をベースに、各国の生活文化向上とファッションビジネスの振興を図り、更にアジアのファッションを広く世界に発信していこうという想いを込めて発足し、順調に発展した。
- ◇ 年次行事の AFF 大会については、2003年の東京での発足会以来、韓国、日本、中国、シンガポール、タイ、ベトナムにて開催し、回を重ね今回で第7回目を迎える。各大会は、加盟国の相互交流、相互理解を深める場として、また、次代のファッション産業を担う人材の発掘や支援を推進し、アジアファッションを広く発信する場として、重要な役割を果たし、いずれも大きな成功を収めた。
- ◇ 現在、アジアは、生産拠点としてのみならず巨大なマーケットとしてすでに高い注目を浴びているが、加えて重要な点は、アジアが自らファッションを創造し、世界に発信できる存在になりつつある現状である。アジアファッション連合会は、正にアジアのファッションを世界に向けて発信する母体としてその活動を強化すると共に、今こそ相互協力体制を整え、相互にマーケット参入を可能にする取り組みも強化していく時期であり、アジアファッション連合会の活動について更なる充実が図れるよう、努力していきたい。



オープニングセレモニー風景



杭州市副市長 Mr. Shen JIAN



各国の民族衣装を身にまとったエスコートスタッフ



日本 平井委員長



中国 QING 委員長



韓国 WON 委員長





シンガポール TAN 委員長代理    タイ KONGPIYACHARN 委員長    ベトナム AN 委員長

▶ ファッションショー

加盟各国で活躍するデザイナーを1名ずつ起用し、それぞれ約10作品を発表。竹や石が組み合わさりオリエンタルな雰囲気にも包まれたステージ上に、時代を捉えた様々なファッションが披露され大会を華やかに彩った。日本からは、ブランド“SHIDA TASUYA”のデザイナー信太達哉氏が参加。様々な素材と柄の組み合わせや豊かな色使いが特徴の作品は、自由なコーディネートにより、着る人によってそれぞれ異なるスタイルが表現できるとして、各国の参加者を魅了し高い評価を得た。

また、今回は、各国を代表して参加したデザイナーそれぞれをアジアの卓越した新進ファッションデザイナーとして高く評価し、表彰式を併せて実施した。



各国委員長が署名した表彰状



デザイナー表彰式風景

【参加デザイナー】 Japan

信太 達哉 氏  
%SHIDA TATSUYA+ デザイナー

China

Mr. Cabeen  
Cabeen Fashion Co., Ltd. アートディレクター

Korea	Ms. Gi Ryang KIM %HOJIAMI by GIRYANG+ デザイナー
Singapore	Mr. Desmond YANG %byzz+ デザイナー
Thailand	Mr. Chai Jeam AMORNROT %Chai@headquater+ %Chai Rwd Label+ デザイナー
Vietnam	Ms. Ta Thuy Le HANG %EHANG+ %ASS+ デザイナー

JAPAN

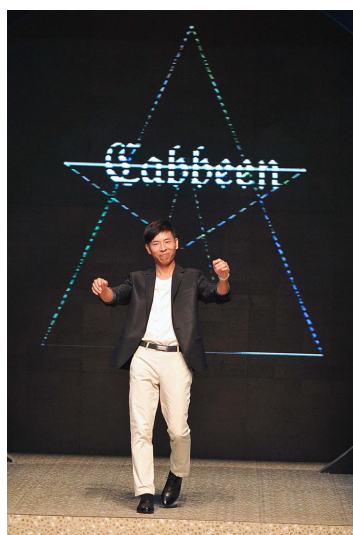


デザイナー 志太 達哉 氏(中央)





CHINA



デザイナー  
Mr. Cabbeen

KOREA





デザイナー  
Ms. Gi Ryang KIM

SINGAPORE



デザイナー  
Mr. Desmond YANG



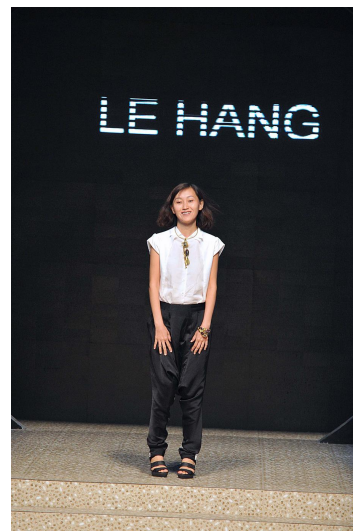
THAILAND



デザイナー  
Mr. Chai Jeam  
AMORNRAT

VIETNAM





デザイナー  
Ms. Ta Thuy  
Le HANG

● レセプションディナー

7月3日(土) 18:00~20:00 Hempel Headquarters Entry Hall

今回のセレモニー、およびレセプションディナー会場をご提供いただいた Hempel International Group の社長 Zhang Jian MIN 氏をお迎えし、レセプションディナーを実施。参加者は、活気あふれる雰囲気の中、国際交流を行った。



各国委員長 および Mr. MIN (右2番目)

披露された中国古典芸能



レセプションディナーでの交流風景



● セミナー

7月4日(日) 09:00~12:00 Sofitel Xanado Hangzhou Resort Hotel

Conference Room

AFF 中国名誉会長 Yuzhou DU 氏よりスピーチがなされ、「Young Generation and Asia Fashion Trends」をメインテーマに、加盟国から招いた専門家によるセミナーを実施。

各国講師は、アジアファッションの更なる強化・発信のためには、西洋の成功例に従うのではなく、自国のアイデンティティを重視したデザイン展開を図ること、若年層の購買傾向を理解すること、トレンドと密接な関わりを持つライフスタイルを把握することが重要と説いた。更に、中国で次世代のマーケットリーダーと言われている 1980 年代生まれの若者の特徴や消費傾向、また、地域によって異なるトレンドや美意識について各国のアパレル路面店の画像が用いられ紹介された。

日本からは、共立女子短期大学 専任講師の渡辺明日香氏が講演し、自身が 16 年に渡り観測を続けている東京のストリートファッションについて、これまでの集積データ(約 15 万点)を基に、歴史的な変遷をふまえて紹介した。更に、ストリートではオリジナリティー溢れる新しいファッションが次々と創造され、そのタイミングはハイ・コレクションよりも早いと発表。世界に浸透した“カワイイパワー”、エリア毎に異なる特徴を持つ“ファッションの多様化”、“クールジャパンへの関心”などにより、日本のストリートファッションが注目を集め、コレクションに影響を与え始めていると解説した。様々な事例を挙げ検証した講演は、各国の受講者から大変興味深いとの声が多く挙がった。



Mr. DU



受講風景

【講演者】	Japan	渡辺 明日香 氏 共立女子短期大学・生活科学科 専任講師 『ハイ・ファッションよりも早いストリートファッション』
	China	Ms. Pauline SU 中国服装設計士協会 副主席 『1980 年代生まれの若者におけるライフスタイルと消費習慣』
	Korea	Ms. Jisoo HA Seoul National University 助教授 『2000 年代における若者のサブカルチャーファッション』

- Singapore Ms. Della NG  
Trainer Coach Consultant  
『アジアのファッション・ウィンドウ』
- Thailand Mr. Anothai CHOLACHATPINYO  
Agro-Industry, Kasetsart University 教員  
『国際トレンドと地方の状況』
- Vietnam Mr. Truong Anh VU  
デザイナー  
『市場と創造のバランス』



日本 渡辺 明日香 氏



中国 Ms. Pauline SU



韓国 Ms. Jiso HA



シンガポール Ms. Della NG



タイ Mr. Anothai CHOLACHATPINYO



ベトナム Mr. Truong Anh VU



## ● 産業視察

7月4日(日) 15:00~16:00 中国軽紡城（浙江省紹興県・テキスタイルシティ）

400を超える紡織服装専門市場がある中国。その中で最大規模を誇る紹興県の繊維品専門市場を訪れ、場内や取引の様子を視察した。

## 【中国軽紡城 プロフィール】

- 浙江省紹興県にある世界最大の繊維品専門市場
- 1988年、「紹興軽紡城」として開業
- 1992年、紡織服装専門市場で唯一「中国」を冠した現名称に変更
- 総敷地面積 : 77.8万㎡
- 総建築面積 : 326万㎡
- 総店舗数 : 約16,000
- 成約総額(2008年) : 634.53億元 (うち輸出入12.82億元)
- 平均来場者数(1日) : 10万人



場内の様子



## ● 晩餐会

7月4日(日) 18:30~20:30 楼外楼 (西湖湖畔のレストラン)

Hempel International Group 主催による晩餐会が行われた。開会にあたっては、同社社長 Zhang Jian MIN 氏よりスピーチを頂いた。



Mr. MIN

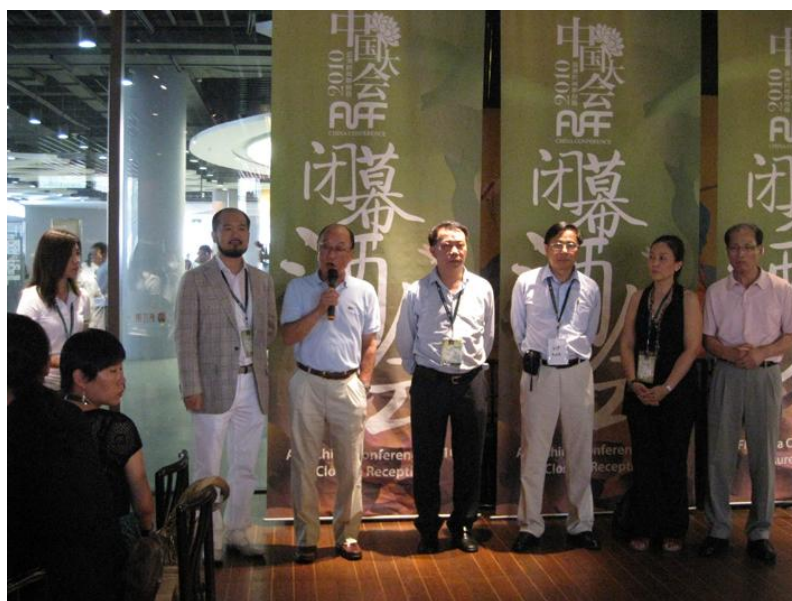


晩餐会の様子

## ● 閉会式

7月5日(月) 11:30~13:00 上海世界博覧会 South Beauty (会場内レストラン)

閉会挨拶として各国委員長より、成功裡に終了した大会の感想、および AFF の今後の展望が語られた。その後、昼食兼参加者同士の懇談の場となった。



閉会挨拶をする各国委員長



● 上海世界博覧会 見学

7月5日(月) 13:30~16:00 中国館、日本館

「中国館」・「日本館」をAFF中国、および東レ株式会社(日本館スポンサー)のご厚意により、それぞれ特別入場枠にて招待・案内していただき、内部見学を行った。



中国館内部



万博会場内



ご参加者集合写真



V. 大会結果掲載紙

- 織研新聞（平成 22 年 7 月 6 日(火)掲載）

## 第7回AFF中国・杭州大会

# 「新世代とアジアのファッショントレンド」で相互交流

【上海支局】第7回アジアファッション連合会（AFF）中国・杭州大会が3、4日、杭州で開催された。日本からはAFF日本委員会の平井克彦委員長や三宅正彦副委員長など19人が参加、中国324人、韓国24人、シンガポール3人、タイ14人、ベトナム11人を含め全体では約400人が参加した。

3日のAFFトップ会談では次回の大会開催、AFFのウェブサイトを、アジア（AFF）デザイナークラブの3議題について意見交換。次回大会は11年10月半ばに韓国の大邱で開催する。テーマは「アジアの新しいファッション」になる予定。AFFのウェブサイトに09年度トップ会談（ベトナム会議）でベトナムが研究し、予算見積もりのすることを決めており、今会談では暫定的にベトナムでウェブサイトを運営し、結果を見ながらAFFの常設事務局設置と併せて、改めて検討することを確認された。

「中国でもビジネス展開をめざす」（信太達哉）。

4日に行われたファッションフォーラムでは中国紡織工業協会の杜鈺洲会長のあいさつの後、6カ国の講師から「新世代とアジアのファッショントレンド」のテーマでの講演があった。社会長は「世界金融経済危機以降、中国ファッション産業は内需の方にシフトしている。今年1〜5月期の同産業の成長率は前年同期比27%増で、うち輸出は10%増だった。アジアにとってファッション産業は内需、輸出双方にとって重要で、新世代のニーズを研究や各国の経験をシェアし合うことが大切である」と語った。日本からは渡辺明日香氏（共立女子短期大学専任講師）が「ハイ・ファッションよりも早いストリートファッション」のテーマで講演した。

渡辺氏は「79年の『渋谷ギャング』以来、若者がコレクションのトレンドを編集し自分たちのファッションを発信する逆転現象が起き、ストリートファッションのスタイルが半年後の欧州コレクションに登場する現象も出てきた。トレンドがグローバル化している中で、ある種のローカルリズムが求められ、その一つとしてエリアや個々のストリートファッションが注目されているのではないかと指摘した。

トップ会談後に開会式がヘルンベル本社で行われた。各国委員長あいさつの中で平井日本委員会委員長は「アジアからファッションを創造し世界に発信し続けることが大切で、AFFはアジアのファッションを世界に発信する母体にならない。交流や相互にマーケット参入を可能にする取り組みもさらに強める必要がある」と強調した。

各国の新進デザイナーによるファッションショーでは日本から信太達哉が「シタ・タツヤ」今秋冬コレクションを発表した。シタ・タツヤはすでに香港の2店舗で販売しているが、「中国でもビジネス展開をめざす」と指摘した。

新進デザイナーが参加したファッションショー（円内は平井委員長）

SHIDA TATSUYA

「中国でもビジネス展開をめざす」

- 日本繊維新聞（平成 22 年 7 月 6 日(火)掲載）

### AFF

アジアファッション連合会

**旬の言葉**      **要言の目**      **アジアファッションを世界に**

アジアファッション連合会（Asia Fashion Federation）の略。3〜5日の日程で今年度年次大会を中国杭州で行っている。

AFFはアジアの生活文化の向上、互いのファッションビジネスの活性化、アジアファッションの世界発信などを目的に03年12月に日本、韓国、中国の各ファッション関連団体により設立。その後加盟国が増え、現在はシンガポ

ール、タイ、ベトナムを加えた6カ国。

事業の一環として加盟国で年1度の大会を開いており、中国は北京開催に続き2度目。万博でにぎわう上海にも近い杭州で3日にトップ会談とファッションショーを、4日にフォーラムが行われた。ショー、フォーラムは前回のベトナム大会から毎回実施されている。



● 日本繊維新聞（平成 22 年 7 月 8 日(木)掲載）



開会式での各国委員長。左から2番目が平井日本委員長

### AFF第7回中国大会

# アジアの要素で創造を

## AFFは世界発信の母体

アジアファッション連合会(AFF)の第7回大会が3、4日、中国・杭州市で開かれ、アジア地域から世界へ発信する「リエーション」の方向性を鮮明にする中で、AFFは、ビジネスマッチングを促進するためのウェブサイトの開設や常設事務局の設置を継続して協議することで合意、アジアンデザイナークラブの結成も具体的に検討することになった。

AFFは、アジア・東欧・中南の3カ国でファッションの世界への発信「発信」を発足。その後、シンガポールと各国生活文化の相互理解、タイ、ベトナムが加入し、03年12月に加盟し、年一回各国持ち回りで大会を開いていく。中国大会は06年以降、今回は来度2度目。今回は加盟各国代表を含めて約400人が参加した。

「アジアンデザイナークラブ」に関して、欧米のトレンドを取り入れるだけでなく、アジア地域の要素を取り込んだデザインを設計し、それを基に活動強化することもある。

「アジアンデザイナークラブ」の結成も具体的に検討することになった。 AFFの活動の意義については、大会恒例のセミナーで冒頭、あいさつした中国紡織工業協会会長・AFF名誉委員長の杜桂州氏が「新世代のニーズの研究や各国の経緯をシェアし合い、それぞれの考えを学ぶことがアジアファッションの発展につながる」と述べた。 次回大会は11年10月の韓国・大邱市で開催される。

に協議したが、時間が限られていたこともあり、AFF常設事務局の設置問題(併せて、継続して協議することになった。また、タイが提案していた「アジアン・デザイナークラブ」についてもタイが提出した提案を各国が持論を述べた。 AFFの活動の意義については、大会恒例のセミナーで冒頭、あいさつした中国紡織工業協会会長・AFF名誉委員長の杜桂州氏が「新世代のニーズの研究や各国の経緯をシェアし合い、それぞれの考えを学ぶことがアジアファッションの発展につながる」と述べた。 次回大会は11年10月の韓国・大邱市で開催される。

### AFFセミナー

## 変化するトレンド波及

### 新世代ニーズは追従ではない

AFF中国大会のセミナーの研究を通じて「新世代は」とタイのデザイナーの作品には「新世代とアジアンファッ」誰かが流行を安撫に取り入るは小さな相違点しかない。新「トレンド」のテーマで、街、マンガ、世代のニーズは西洋への追従ではない。自分のアイデンティティを求めている。新世代のトレンドは、外国人に教えるものではなく、自分たちの「ストーリー」を語る。分たちが発信するものになる。年一回のコレクションショー「だろ」と、アジア各地の子短期大学専任講師は、16年「も知れない」と、トレンド波たクリエーションの必要性を及が変化する状況話し強調した。

タイの代表は「国際トレンドと地方の状況」と題して「今日、国際的なデザイナーは、自分のアイデンティティを求めている。新世代のトレンドは、外国人に教えるものではなく、自分たちの「ストーリー」を語る。分たちが発信するものになる。年一回のコレクションショー「だろ」と、アジア各地の子短期大学専任講師は、16年「も知れない」と、トレンド波たクリエーションの必要性を及が変化する状況話し強調した。

● 織研新聞（平成 22 年 7 月 9 日(金)掲載）

### めてのみ

第7回アジアファッション連合会(AFF)大会が3、4日、中国・杭州で開催された。日本、中国、韓国、シンガポール、タイ、ベトナムの6カ国から約400人が参加。ファッションフォーラムでは「新世代とアジアのファッショントレンド」のテーマで相互交流したほか、AFFトップ会議も開かれた。AFFトップ会議ではAFFウェブサイトをアジアデザイナークラブなどについて意見交換した。新世代ニーズの研究はファッション産業の発展には重要だし、AFFウェブサイトはビジネス展開に有効で、ともに時代の要請ともいえるテーマだ。アジアは消費市場としてだけでなく、ファッションの発信基地としても重要度を増している。東京のストリートファッションは欧州コレクションに影響を与え、中国ファッション市場では80年代生まれの「80后」や「ポスト80后」世代がリードし、今後の鍵を握っている。米国の影響を受けつつも独自の発展を見せる韓国のサブカルチャーやスタイルも見逃せない。AFFウェブサイトをアジアデザイナークラブは、アジアのファッションビジネスやデザイナー活動を支援するツールやプラットフォームづくりともいえるべき挑戦である。形が見えないうちに、アジアの新世代と多様性はどのような発信をしていくのだろうか。



● 日本繊維新聞（平成 22 年 7 月 21 日(水)掲載）

(1 枚目 / 3 枚中)

# アジアに根差した創造へ

AFF (アジアファッション連合会) 第 7 回中国・杭州大会

## サイトでビジネス支援 タイに常設事務局設置

アジアファッション連合会 (AFF) の第 7 回中国・杭州大会が 3 日、4 日の両日に開かれた。各国代表によるトップ会議、各国の専門家によるセミナー、各国の若手デザイナーによるファッションショーの競演などが行われたが、今大会は「アジアのライフスタイルに根差した創造 (クリエイション)」の重要性が共通認識として浮上したことが特徴的だ。また、ビジネス交流でも、そのための AFF ウェブサイトの開設と常設事務局の設置問題でもタイが担当することとまとまる方向が固まった。



開会式での各国代表。左から  
2 人目が平井日本委員長

トップ会議では、昨年のベトナム大会で提起された、継続課題になっていた「AFF ウェブサイトの開設、常設事務局の設置」が、タイに根差した創造の方向で調整することになった。費用は原則として各国が分担する。

今回の大会では、恒例のセミナーを通じて「アジアのライフスタイルに根差した創造」の方向性が鮮明になったことが特徴的だ。

人口が多く、経済成長が著しいアジアは、ファッション産業では世界の生産地であり、同時に消費地。これまでは、主として欧米のトレンドをフォローしてきたが、各国・地域のライフスタイルに根差したファッションを創造しようとの意識が強まったことは、AFF での交流の 1 つの成果といえる。

AFF は日本、中国、韓国の 3 カ国が、アジアファッションの世界への発信と各国生活文化の相互理解・相互交流を目的に 03 年 12 月に東京で結成。その後、シンガポール、タイ、ベトナムが加盟し、現在 6 カ国で構成している。

主な活動は、各国持ち回りで開催している年一回の大会。今回は中国・杭州で開催したが、中国での大会は 06 年の北京大会に続くもので AFF 大会は 2 順目に入った。

「AFF ウェブサイト」の開設は、AFF 活動の 1 つの目的であるビジネス交流を促進するため、まずはビジネスマッチングに寄与できるサイトを開設しようというもので、昨年これを提案したベトナムが設計したサイトを検討したが、時間が限られていたこともあり、常設事務局の設置問題と合わせて引き続き検討することになった。

ただ、トップ会議後の公式レセプションなどの



(2 枚目 / 3 枚中)

# AFFの現状と今後

## 平井克彦 日本委員長



研究や生活文化創造都市の検討などを実施してきた。

しかしその後、シンガポール、タイ、ベトナムが新規に加盟したことで、当初の生活文化路線はぐくまわなくなってきた。

この2、3年、活動の主題は模索中だったが、前回大会と大会を通じて2つの潮流が出てきた。一つは、欧米トレンドのフォローではない、アジアの生活文化、伝統に根差したアジアファッションを創造し世界に発信すること。

前回のベトナム大会で「まじまじ」ブランドの堀畑裕之・関口真希子氏の「伝統的な色柄、技法を掘り起こして現代ファッションを創造している」との講演は参加者に感銘を与えたが、今回はタイの代表が地域の生活文化に根差したファッションの創造を、と強調その方針に沿ってアジアカンパニーの共同した。

## 見えた2つの潮流

生活文化に根差したファッションと言えは、かつて三宅一生、川久保玲、山本耀司氏の日本の生活文化を土台にしたファッションが世界に衝撃を与えた。昨今、衝撃を与えるデザイナーが出現していない現実と生活文化の関

係性を研究する余地があるかもしれない。今中国大会で、タイから「アジアデザインクラブ」およびその活動の場としての「アジアデザインフォーラム」を設置しようとの提案があった。トップ会議では時間不足で検討できず、各国がタイ案を持ち帰って今後議論することになったが、アジアのデザイナーが交流し、互いに刺激し合うことと試みる価値があり、今後、検討することになる。

もう一つは、ビジネスプロモーション。各国が互いにビジネスをサポートする。アジア、特に東アジアは関税障

壁がなくなり、1つの生産地・1つの市場、デザイナーの発信地になっていく。その市場に参入する際、AFFとビジネスを行うわけではないが、その土台づくりはできる。

今回、中国は大会に合わせてビジネスマッチングを図る意向を示していた。時間が足りないため見送りになったが、ビジネスマッチングの意向はあった。ただ、AFF大会に合わせたビジネスマッチングは無理だろう。関係者が一堂に集まるのは難しい。そうではなく、各国が既に行っているパレルン3カ国を結節する上でもっともきつ展示商談会、テキスタイル展、コレクティブ展示会などを活用することが現実的だ。既に各国がやっている行事を活用して商談を行う。

そして、その前に展示商談会の内容、日程、各社の希望などを公開し、互いに準備する。そのツールがAFFウェブサイトで。今回、ベトナムがウェブサイトのAFFウェブサイトをつくり、提案を拡大することが重要だ。

「AFF の現状と今後」 平井委克彦委員長談 英訳

The Asia Fashion Federation: Present Circumstances, Future Prospects  
Two Approaches Emerge

Katsuhiko Hirai, Chairman, Asia Fashion Federation Japan Committee

Amidst the current economic climate· in which the Asian region is seen as a high-growth emerging markets· we asked Mr. Katsuhiko Hirai, Chairman of the Asia Fashion Federation Japan Committee, about the significance of the Asia Fashion Federation (AFF), its course of development up through the current time, as well as his views on the organization's present and future.

At the juncture of our seventh conference, we can definitely say that our focus is in flux. At the time AFF was established by fashion organizations in the three countries of Japan, Korea and China, our mission was firmly rooted in the concept of lifestyle. Our goals were to help boost living standards in each of the three countries, to promote the fashion business, and to bring Asian fashion to the world. Consistent with this line of thinking, we have carried out joint research with a distinctly Asian flavor. Another of our activities has been to devise ideas for a higher standard of lifestyle in cities.

Subsequently, however, when Singapore, Vietnam and Thailand joined our Federation, we found that our lifestyle theme was no longer appropriate. Over the past two or three years, we have been searching for another theme to replace that initial one. We have seen two distinct approaches develop over the last two conferences. The first is to create our own unique Asian fashion, based in Asian lifestyle and tradition, and to convey it to the rest of world, instead of following simply U.S. and European fashion.

At the last conference, held in Vietnam, Hiroyuki Horihata and Makiko Sekiguchi, originators of the Matohu brand, gave a lecture on creating modern fashions drawing on traditional colors and patterns as well as traditional techniques· a subject that greatly piqued the interest of the audience. Similarly, the Thai delegation at the most recent conference emphasized the creation of fashions rooted in regional lifestyles.

In the past, Japanese fashion deeply rooted in lifestyle concepts has had a tremendous impact on the world, including the work of designers such as Issey Miyake, Rei Kawakubo and Yoji Yamamoto, which was based in the Japanese lifestyle in particular. In more recent years, however, we have not seen any designers who have had a similar level of impact. It may be well worth examining this fact in relation to current lifestyle trends.

At the China Conference, the Thai delegation proposed that we set up a special club for Asian designers as well as forum for these designers to work through. Though due to time constraints the topic was not discussed at management-level meetings, the country representatives returned home with a view to further discussing the Thai proposal. All agreed that there was great significance to the idea of creating opportunities for designers working in our member countries to share opinions and ideas, and that we should try to make that happen in the future.

The second approach involves the idea of business promotion, where each country



helps to support the fashion business in the others. In Asia, East Asia in particular, tariff barriers have been broken down, so much so that the region is now coalescing into a single manufacturing zone, a single market and an integrated trendsetting zone for designers. We at AFF want to help businesses set up in this market. Though AFF itself does not engage in business, what we can do is help create a business base.

At this past conference, the Chinese delegation proposed a system of business matching. Though this initiative was postponed due to time limits, there is now a solid interest in business matching in the AFF.

However, I believe that business matching coordinated with the AFF conference will not be a possibility, due to the difficulty involved in bringing all related parties together. Instead, it is more realistic to utilize existing events such as combined apparel exhibitions/business forums, textile exhibitions, collection shows, etc. Holding business talks concurrently with these local forums is the better choice.

Prior to these events, we need to publicize information on the details of such exhibitions and forums, dates, any requests from companies, etc., so that we can work together to make the appropriate preparations. The tool to use for this is the AFF website. For the latest conference, the Vietnamese side created and presented a prototype website. Through the website the user can access AFF in each of the countries and regularly update data.

The issue here is which country would manage the website. Optimally, the country that sets up a permanent office for the website operates it, while costs would be split between member countries. Because no conclusion was reached on this subject at executive board discussions, instead I held talks with individual representatives. We found that the Thai delegation showed an interest in taking on the job, and the other countries agreed. It is highly likely that a permanent office will be established in Thailand, from where the site will be run.

Thailand is the country that most effectively links the three Northeast Asian countries and three of the ASEAN countries. This is important because, in the future, many new members of AFF will likely be members of ASEAN. Thailand is therefore the optimal choice.

Meanwhile, the issues of (1) what kind of apparel should be manufactured and (2) where it should be sold are among the biggest concerns of all AFF member countries. For this reason it is important that AFF chapters in each member country enlist the help of experts in their respective countries· including collecting consumer information· to provide the support needed for the gradual growth of the fashion industry.+



(3枚目/3枚中)

### セミナー「新世代とアジアファッショントレンド」



各国からの報告員を傾ける参加者

共立女子短大・渡辺専任講師が講演



渡辺専任講師

## 変わるトレンドの波及システム

AFF中国大会でのセミナーのテーマは「新世代とアジアファッショントレンド」。加盟6カ国から各1人計6人の専門家が講演した。

AFFの主題に関して注目を集めたのは、渡辺明彦・共立女子短期大学准講師とタイのカセットサート大学教員のアヌタイ・チヨラチャット・レノ氏の3名。

渡辺氏は「ハイ・ファッション」の早いストリートファッション」と題して、16年にわたって研究してきた東京ストリートファッションをテーマとした講演を行った。渡辺氏は「80年代は欧米のファッションが根拠となったが、90年代はアジアのファッションが中心となった」と述べ、その中でも「東のストリート」が中心となったと指摘した。

その上で「東のストリート」が中心となったと指摘した。その上で「東のストリート」が中心となったと指摘した。

## 加盟6カ国の若手デザイナーが競演



### 日本は「シダ・タツヤ」

中国・杭州大会で、加盟6カ国から各1人の若手デザイナーが競演した。その中で、日本の若手デザイナー「シダ・タツヤ」の発表が注目を集めた。

シダ・タツヤは「シダ・タツヤ」の発表が注目を集めた。シダ・タツヤは「シダ・タツヤ」の発表が注目を集めた。

中国・杭州大会で、加盟6カ国から各1人の若手デザイナーが競演した。その中で、日本の若手デザイナー「シダ・タツヤ」の発表が注目を集めた。

シダ・タツヤは「シダ・タツヤ」の発表が注目を集めた。シダ・タツヤは「シダ・タツヤ」の発表が注目を集めた。

## AFFの歩み

03年12月、東京を日本、中国、韓国、3カ国で発足。

第1回大会（韓国・ソウル）

第2回大会（日本・名古屋）

第3回大会（中国・北京）

第4回（シンガポール）

第5回（タイ・バンコク）

第6回（ベトナム・ハノイ）

第7回（中国・杭州）

中国大会で、来年の年次大会は、韓国・大邱で10月に開催することが決まった。